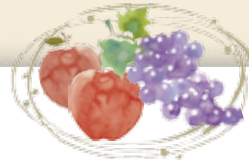


# いっぺいといっぱく Vol.60



市長は長久手をどんなまちにしたいか、そのために何に取り組もうとしているのか。その想いを市長の語り口でお伝えします。みなさんと語り合うように、一緒に未来の長久手のことを考えてみましょう。また、市HP【によぜがもん】もぜひご覧ください。[市HPのトップページから「によぜがもん」をクリック。]



## お祭り

市内の各所で行われているお祭りに、できる限りごあいさつに伺いました。今年はとても暑い夏でしたが、皆さんの熱気はそれ以上で、どこのお祭りもとても盛り上がっていました。過疎化や高齢化により、地方のお祭りの存続が危ぶまれているといった話も聞きますが、本市においては若者や子どもの参加が多く見受けられ、どこのお祭りも大にぎわいでした。

こうしたことを市の職員と話していたところ、その職員は結婚を機に引っ越しをして以来、10年以上お祭りに参加していなかったそうですが、最近になってお祭りに参加するようになったとのことでした。お祭りに参加するようになったきっかけを聞いたところ、「自治会の役員が順番で回ってきたため、渋々引き受けて清掃活動やお祭りの準備など参加した。それまでは地域への愛着のようなものを感じていなかったが、知り合いができたことで地域の一員になったように感じて、お祭りにも参加するようになった」とのことでした。

私が職員の話聞いて、改めて感じたのは、まちを作り上げるのは、条例でも道路でも施設でもなく、人とひとのつながりだということでした。これからの最も重要な課題は、人口減少です。本市でもいずれ人口減少が始まると、税収も労働人口も減ってしまうため、市役所の行う行政サービスも今までどおり行うことができなくなります。そんな時代には、市民の力で地域を支えるしかない、といつもお話しているのですが、そんな市民同士の支え合いも、近所づきあいも何もない状況では成り立ちません。職員が地域の活動に参加したことにより、知り合いができて地元へ愛着を持つようになったように、市民同士であいさつし、関わり合って知り合いを増やし、「あの人は今、どうしているのだろう?」と気にかけることが、まちづくりの本質なのだと思います。

昔は、田植や家づくりといった一人では大変なことは、皆で協力して作業を行いました。協力し合わないと生活ができなかったのです。そこで、お互い助け合えるよう地域の結束を強めるため、お祭りが開催され、皆で騒ぎ楽しむことで、生きていくために必要な人とひとの絆(きずな)を作り上げていったのです。これから人口が減少していくと、また一人では生きられない時代となり、皆で協力し合うための絆が改めて必要となることでしょう。

皆さんもぜひ、お祭りなどの地域の行事に参加していただき、周りの人とあいさつし、声を掛け合えるつながりを作って、地元への愛着を深めていただきたいと思います。そしてお互いのことを気にかける、考えることがまちづくりの原点で、最初の一步なのだと思います。



ご近所で「いつもと違う」と気づいたときはお電話ください

長久手市地域見守り安心ほっとライン

0561-63-5556

24時間  
365日受付



## ↑↑ まちの話題 ↓↓

西日本豪雨被災地支援のため、派遣職員に選ばれた安心安全課の森田主事の壮行会を8月3日に行いました。森田主事は「現地の空気感をしっかりと感じ取り、今後に活かしたい」と抱負を語りました。派遣期間は8月4日(土)から8月8日(水)でした。

